

令和7年度 第1回文化財保護審議委員会議
資 料

令和7年度 第1回 文化財保護審議委員会議

会 議 次 第

令和7年7月24日（木）

午後2時～

朝霞市博物館 講座室

1. 開 会

2. 議 事

（1）令和7年度文化財課事業について

（2）その他

3. 閉 会

朝霞市文化財保護審議委員名簿

氏 名	職業又は所属・職名
あら い ひろ ぶみ 新 井 浩 文	埼玉県立文書館史料編さん担当学芸主幹
ささ もり き み こ 笹 森 紀 己 子	さいたま市史編さん専門委員
し ば おさむ 斯 波 治	元新座市教育委員会生涯学習課副課長兼学芸員
すず き やす し 鈴 木 康 之	朝霞市立朝霞第五中学校校長
す やま けん ゆう 陶 山 憲 裕	三光院住職
てら もと まさ とし 寺 元 正 俊	宝蔵寺住職
とみ おか のり お 富 岡 則 夫	溝沼獅子舞保存会会長
はし もと なお こ 橋 本 直 子	元葛飾区立郷土と天文の博物館学芸員

※委員名五十音順

(1) 令和 7 年度 文化財課事業について

令和7年度 事業計画

文化財保護普及事業

事業目的 文化財が市民共有の財産であるという意識が啓発され醸成されるよう、文化財保護・普及を図る。

(内容)

- 文化財保護審議委員会議の開催
 - ・会議2回(1回目：7月24日、2回目：2月予定)
- 文化財関係団体への補助金の交付
 - ・交付団体：溝沼獅子舞保存会、根岸野謡保存会、一夜塚古跡保存会
- 文化財保護に関する啓発活動
 - ・市広報や市HP、フェイスブックなどの電子媒体を活用した文化財や事業等の紹介
 - ・「あさかみどころマップ～朝霞市文化財案内～」の配布による市内文化財の紹介
 - ・市HP上で近年の発掘調査概要の掲載（あさか発掘トピックス）
 - ・博物館での「あさか発掘調査速報展」実施
 - ・小学校における埋蔵文化財出土遺物の展示

現況	学校名	展示開始時期	内容
	朝霞第四小学校	平成22年4月～	校舎改築時の発掘調査で出土した遺物
	朝霞第五小学校	平成22年4月～	校舎改築時の発掘調査で出土した遺物
	朝霞第七小学校	平成28年4月～	学区内の遺跡から出土した遺物
	朝霞第二小学校	平成29年5月～	学区内の遺跡から出土した遺物
	朝霞第十小学校	平成30年6月～	学区内の遺跡から出土した遺物
	朝霞第九小学校	令和元年5月～	学区内の遺跡から出土した遺物

指定文化財等保護管理事業

事業目的 市内にある県・市指定文化財の適切な保護及び管理を行う。

(内容)

- 県指定史跡「柊塚古墳」（柊塚古墳歴史広場）
 - ・清掃等業務委託（通年）
 - ・除草、剪定等敷地管理（擁壁斜面除草、公開範囲芝刈、樹木剪定 等）
- 市指定史跡「広沢の池」
 - ・清掃等業務委託（月2回・隔週）
 - ・補給水設備保守点検（年2回）
 - ・除草、剪定等敷地管理（池周縁部の除草、樹木剪定 等）
 - ・水質検査（年1回）
- 市指定天然記念物「湧水代官水」
 - ・清掃等業務委託（通年）
 - ・除草、剪定等敷地管理（民地境界付近除草、公開範囲芝刈、樹木剪定 等）
 - ・水質調査（年2回）
- 市指定史跡「二本松」
 - ・マツ、低木の剪定
- 市指定有形文化財「六道地藏尊」所在敷地
 - ・敷地管理

埋蔵文化財調査保存事業

事業目的 市内の埋蔵文化財の保護のために、確認調査及び発掘調査を行う。あわせて調査の成果を公開・活用できるように資料整理を行い、調査報告書を作成し、出土品の保存を図る。

(内容)

- 発掘調査の資料整理の実施及び調査報告書の作成
 - ・発掘調査の資料整理
 - ・発掘調査報告書の作成：泉水山・富士谷遺跡第58地点
- 発掘調査報告書作成のための資料作成業務委託の実施
 - ・宮台・宮原遺跡第16地点の発掘調査報告書刊行に係る図版作成・原稿執筆・印刷製本等
- 出土金属製品の保存処理の実施
 - ・市内遺跡出土金属製品：
 - 榎戸・諏訪原遺跡出土 鉄鏃、向山遺跡出土 刀子 ほかに計6点

○開発等に伴う確認調査（試掘調査）の実施 6月30日現在（単位：件）

月	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
	確認調査	うち立会い	確認調査	うち立会い	確認調査	うち立会い
4	6	0	7	5	3	0
5	2	0	10	5	10	2
6	7	0	8	1	4	0
計	15	0	25	11	17	2
年計（件数）	—	—	80	24	99	21
年計（日数）	—	—	113	24	164	21

○朝霞市あずま南地区土地区画整理事業に伴う試掘調査 ※埋蔵文化財包蔵地外

- ・令和4年度～実施中 : 令和6年度実績 約22,000㎡試掘調査実施
: 令和7年度実施中 約8,000㎡（6月末現在）
- ・令和6年度末時点 調査済み面積 約96,000㎡／全体面積134,906.54㎡

○個人住宅等の発掘調査の支援 6月30日現在：無し

○発掘調査の実施

	発掘調査	うち前年度から継続	うち個人住宅等調査
令和5年度	7	1	0
令和6年度	6	2	0
令和7年度	1	0	0

- ・令和7年度実施：東流山・水久保遺跡第2地点（調査期間：5月21日～6月12日 調査面積：210.88㎡）

埋蔵文化財センター管理事業

事業目的 埋蔵文化財保護の推進を図り、資料保存作業を行い、整理後の資料の保存・活用を図る拠点として、埋蔵文化財センターの維持管理・運営を行う。

(内容)

- 施設の維持管理
 - ・警備業務委託（通年）
 - ・空気調和設備保守点検業務委託（年2回）
 - ・消防設備保守点検業務委託（年2回）
 - ・施設・設備修繕等（随時）

旧高橋家住宅管理運営事業

事業目的 重要文化財旧高橋家住宅の保存及び活用を図るため、施設の管理運営を行う。

(内容)

○施設の維持管理

- ・管理等業務委託（通年）
- ・警備業務委託（通年）
- ・電気設備回路点検業務委託（年1回）
- ・消防設備保守点検業務委託（年2回）
- ・除草・剪定等敷地管理（民地境界付近・山林等除草、高木剪定等）
- ・施設・設備等修繕（随時）
- ・水質検査（年1回）
- ・主屋くん煙（通年）

○消防訓練の実施

○登録ボランティア：来園者対応、畑の活用、敷地内の整備活動、事業実施等への協力

- ・安全保険加入、資材提供
- ・登録者数：24人

○活用事業

- ・実施予定事業
 - 農業体験：じゃがいも掘り、さつまいも掘り、さといも掘り
 - 自然観察等：旧高橋家住宅どきどきツアー（2回）
 - 綿育て隊、お正月遊び、ガイドツアー
- ・年中行事展示：三月節句、五月節句、七夕、盆棚、彼岸、月見、恵比寿講 ほか

6月30日現在

事業	予定	対象	7年度	6年度	5年度
じゃがいも掘り	6月28日	どなたでも	9組26人	9組28人	雨天中止
旧高橋家住宅 どきどきツアー	①7月20日 （夜間） ②8月17日 （日中）	小学生と 保護者	①6組 ②6組	①6組24人 ②25人	①5組14人 ②3人
ガイドツアー ※事業実施時に行う。	各事業 実施時	事業参加 者ほか	26人	28人	82人
綿育て隊	5月～ 12月	市民	3組10人	6組18人	5組14人

○来園者数

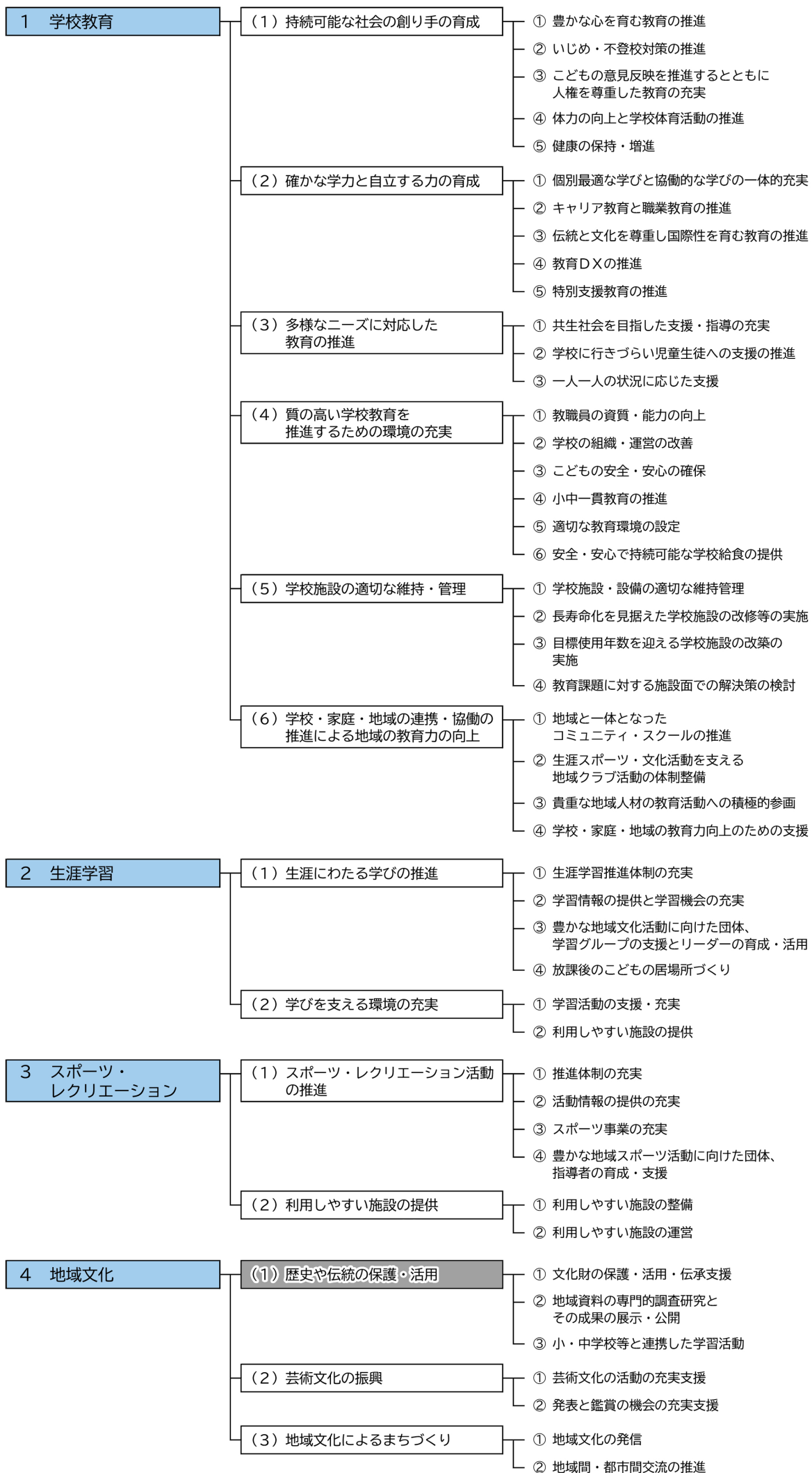
6月30日現在

月	市内	市外	計(人)		
			7年度	6年度	5年度
4	1,114	121	1,235	1,262	1,525
5	1,009	130	1,139	1,473	1,284
6	674	55	729	687	649
計	2,797	306	3,103	3,422	3,458
年計	—	—	—	11,930	11,058

※令和5年度開園日数 / 4月:26日、5月:26日、6月:26日（計78日）

※令和6年度開園日数 / 4月:25日、5月:27日、6月:26日（計78日）

※令和7年度開園日数 / 4月:25日、5月:27日、6月:25日（計77日）



4 地域文化

《目指す姿》

市民が芸術文化活動の成果を発表できる場と機会が確保され、さまざまな芸術文化にふれあうことができるとともに、「彩夏祭」などの地域イベントが市民の手で継続して開催され、次世代に地域文化が歴史や伝統とともに継承され、郷土に対する愛着や誇りを持てるまちを目指します。

具体的な施策

(1) 歴史や伝統の保護・活用

主担当課：文化財課

《現状と課題》

地域の歴史や文化財について身近に接する機会が増え、次世代に地域文化が歴史や伝統とともに継承され、郷土に対する愛着や文化財保護の理解と認識を深めていくことが必要です。

学校との密接な連携により、こどもたちが郷土の歴史や文化を学ぶ機会を広げていくとともに、資料のデジタルアーカイブ化を促進し、ユニバーサルな視点で市民のニーズに対応していく必要があります。

《成果指標》

指標名(単位)・説明	
■文化財課が行う事業に対する満足度(%)	
博物館・旧高橋家住宅で行う展示・事業に対する満足度	
現状値(R6見込)	目標値(R12)
60	70

① 文化財の保護・活用・伝承支援

重要文化財旧高橋家住宅をはじめ、市内に残されているさまざまな文化財を後世に伝えていくため、維持管理や修繕、保存環境の整備などを行っていきます。

② 地域資料の専門的調査研究とその成果の展示・公開

市民の学習ニーズに応えるため、地域に残された資料について、学芸員等が専門的・科学的に研究を行い、その成果を展示や講座で提供していきます。

調査成果を刊行物やデジタルアーカイブ化し、継続的に研究成果が多くの媒体で使用できるように努めていきます。

③ 小・中学校等と連携した学習活動

小・中学校等が、来館や調べ学習の場として博物館や埋蔵文化財センターを利用するなど、学校教育の中のさまざまな場面で各施設を利用してもらうことで、より豊かに郷土の歴史、文化を学習できるよう、積極的に学校教育との連携を図っていきます。

<参考実績値>

	R3	R4	R5	R6(見込)
県・市指定文化財件数(件)	34	34	34	34
文化財保護関係団体の事業開催回数(回)	0	1	5	5
埋蔵文化財調査報告書作成件数(件)	2	3	2	2
博物館を利用した学校団体数(団体)	19	23	26	26

博物館を利用した学校団体数(団体)

